



夏休み号 令和元年7月19日発行

荏田小だより

横浜市都筑区荏田南町694番地 [TEL.911-0149]



これからの社会を生きる子どもたちにとって必要な力
「課題解決や協働学習・自主的学習力」

校長 伊藤 智樹

「10～20年後に日本の労働人口の49%の仕事がAIやロボット等で置き換えられる」というレポートが2015年12月、オックスフォード大学と民間研究所の共同研究によって発表されたことがあります。このレポートを読んで私は衝撃を受けました。

日本では、あまり知られていない言葉ですが、『21世紀型スキル』という言葉があります。グローバル社会を生き抜くために必要とされる能力を指す言葉です。欧米やアジアなどの世界各国の政府がその能力育成を重視した教育に取り組み始めています。

2013年当時に東京大学大学院教授の三宅教授は、21世紀型スキルを「『一時的に詰め込んでその後忘れてしまうような知識の習得』ではなく『後から必要に応じて活用できる知識の習得』が重要になってくる。変化に合わせて、いろいろなことを必要になったときに学び直す、生涯学び続けることができる力」と話しています。

そして「21世紀の社会は知識も技術の環境も凄い速さで変わっており、想定外の問題が次々と起こる社会である。『意見の違う人たちが集まって知恵を出し、討論して、その時点で考えられるベストの解を出して、ゴールに近づいたら、そのゴールを見直しながら進む』そういう時代になっている。だから、教育も決まった答えを教員が教えていくのではなく、子どもたちが答えを見付けたり、同時に問題点を発見したり、グループ同士でコミュニケーションしながら解決法を共有し、知を再構築していくプロセスが大切になってくる。そして小中学校の段階からそういう力を育むことが大切になっている。」と述べています。

来年度から小学校では、新学習指導要領完全実施となります。この新学習指導要領にも「将来の変化を予測することが困難な時代を生きる子どもたちにどのような力を身につけさせるのか」という考えが基盤にあります。



新学習指導要領等が目指す姿は以下の内容で示されています。（下線太字部分は筆者加筆）

- 社会的・職業的に自立した人間として、郷土や我が国が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野と深い知識を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲を持って、個性や能力を生かしながら、社会の激しい変化の中でも何が重要かを主体的に判断できる人間であること。
- 他者に対して自分の考え等を根拠とともに明確に説明しながら、対話や議論を通じて多様な相手の考えを理解したり自分の考え方を広げたりし、多様な人々と協働していくことができる人間であること。
- 社会の中で自ら問いを立て、解決方法を探索して計画を実行し、問題を解決に導き新たな価値を創造していくとともに新たな問題の発見・解決につなげていくことのできる人間であること。

明日から夏休みになります。この時間をどのように有効に活用していくのか、子ども自身が考えて計画を立てること、目標に向かって実行していくことが大切になります。いわゆる自主的学習力です。ぜひ、お子様が計画したことに沿ってどのように自分で考えて判断し、実行しているかご家庭でも見守り、励ましていただければと思います。